

紙をめぐる人びとに迫る オンライン展覧会「紙すくひと」を開催します

川崎市市民ミュージアムは2024年12月13日(金)10:00から、オンライン展覧会「紙すくひと」を開催します。

本やノートブック、2024年に新たに発行された紙幣をはじめ、私たちの生活に欠かせない紙。特に日本で伝統的に作られてきた紙は、その美しさと強さから、多くの人々に愛されてきました。

本展では、紙を漉く職人や彼らを支えた者、紙を好いて重用した画家たち、傷んだ紙を救おうとする修復家らに光を当て、約40点の資料と共に彼らの紙にかけた想いを紹介します。

【展示構成】

◆第1章 紙とは

そもそも紙とは何か、どのように造られているのか。伝統的な日本の紙について、代表的な3つの原料と、紙の製造工程を、写真や明治時代に描かれた絵図を紹介しながら解説します。



越前紙漉図説
『越前紙漉資料集』平成5(1993)年より
越前和紙の里 紙の文化博物館所蔵

◆第2章 漉くひと、好くひと

当館の収蔵品の中から安田靉彦などの日本画と浮世絵を取り上げ、1000年以上の技術を受け継ぎながら、その可能性を広げようとする紙漉き職人たちと彼らを支えた人びと、そして、彼らによって造られた紙を好み、それに絵筆を走らせた画家たちを紹介します。



生漉き奉書
人間国宝九代目岩野市兵衛(1933-)
が漉いたもの

◆第3章 救うひと

伝統的な日本の紙は、古い文書や、主に紙を支持体とした美術作品の修復にも使われています。ここでは、当館の収蔵品の修復を行った修復家へのインタビューを通じて、修復に使う紙や修復の実例を紹介します。

本展覧会は、市民ミュージアム Web サイト内の「the 3rd Area of “C”-3 つめのミュージアム-」でご覧いただけます。(無料・申込不要)

開催期間：2024年12月13日(金)10:00～2025年3月31日(月)15:00

<https://www.kawasaki-museum.jp/thirdarea/>



◆【関連企画】講演会「民藝運動と和紙」

民藝運動の創始者である柳宗悦は、和紙をどのように評価していたのか。この講座では、柳と和紙の出会いに触れながら、和紙を通して「美しき日本の姿」を再発見していった柳の活動や、和紙を用いた工芸品である芹沢銈介の型染カレンダーについてお話しします。

講師：杉山 享司(日本民藝館常務理事) 開催日：2024年12月14日(土)13:30～15:00

会場：中原市民館 第1会議室 申込期間：11月18日(月)10:00～12月3日(火)16:00

※申込先：市民ミュージアムイベントページ

<https://www.kawasaki-museum.jp/event/31029/>



【問合せ先】川崎市市民文化局

川崎市市民ミュージアム 前田

電話：044-712-2800